

平成 29 年度第 1 回南北海道定住自立圏共生ビジョン懇談会議事録（要旨）

日時：2017 年 6 月 29 日（木） 13:30～15:30

場所：函館朝市ひろば 2 階 イベントスペース

（13:30 開会）

<挨拶>

（函館市国際・地域交流課長）ご承知のとおり定住自立圏構想は、「集約とネットワーク」と「役割分担」の考え方にに基づき、地域における共通の課題解決や産業の振興に取り組むことを目的としており、当圏域では、本市が中心市となり、渡島・檜山の 17 市町と 1 対 1 の協定を締結している。

各自治体が行き届く具体的な連携事業については、いわゆる実施計画である「共生ビジョン」に盛り込まれており、平成 26 年 9 月の策定後におきましても、追加事業などについて、本懇談会で協議・検討いただき、今年 2 月には第 3 回目の変更を行ったところである。現在、ドクターヘリの運航をはじめとした事業に、連携して取り組んでおり、一定の進捗がありますことから、後ほどご報告をさせていただきたい。

共生ビジョンの計画期間は、平成 26 年度から平成 30 年度までの 5 年間となっており、各分野の専門家である委員の皆様より豊富な知見や経験に基づくご意見を頂戴しながら、毎年見直しの検討を行っていく。

このたびの懇談会は、新しく 8 名の委員にご就任いただいております、引き続きお引き受けくださった 4 名の方々とともに、12 名の新たな体制となっており、初めての会議であるため、委員の皆様には、幅広い観点から闊達なご議論を期待している。

歴史と伝統が息づくこの道南が、将来にわたり「安心して住み続けられる地域」となるよう、本市は中心市としての役割をしっかりと担ってまいりたいと考えており、今後とも皆様のお力添えをいただきたい。

<委員等紹介>

（事務局）委員、オブザーバー、事務局を紹介。

<座長・副座長選出>

互選および座長の指名により、座長には南部委員、副座長に阪井委員が選出された。

<議 事>

（南部座長）今回、函館市の 4 名の委員以外は新たに就任された方々である。議題に入る前に、委員の皆様から、自己紹介を兼ねて、それぞれの分野や地域の課題・現状などをお

伺いたい。

(阪井副座長) せたな観光協会の事務局長を4月から承っている。元々はせたな町役場の職員であり、4月から派遣というかたちで観光協会に所属。観光協会に来る前は、まちづくり推進課という部署で観光の仕事をさせていただいており、4月からは観光協会事務局長と、観光にどっぷり浸かって仕事をしている。せたな町については、昨年3月に開業した北海道新幹線の効果が全く無いということで、道内の観光客が延びているにもかかわらず、道外客は2%ほど減っているというような状況。檜山管内の北部というのは2次交通があり繋がりが悪いため、なかなか人が来ないというような状況もある。そのため、今年度から、レンタカーを使った誘客促進を始めた。6月16日から始めており、函館地区レンタカー協会にご協力いただき、レンタカーでせたな町にお越しいただき、宿泊された方に、一泊につき一人2千円の町内で使える商品券を配布している。早速、使ってくださった方もいるということで、来年の2月、3月くらいまでを目処に、この事業を継続して行っていく。効果がどれくらいあるのかというのはこれから期待するところであるが、こういった取組からせたなの観光を盛り上げていきたい。

(吉崎委員) 私は医療の立場で参加させていただき、今年で3年目になります。定住ということで、住民の健康を守るということに関しては、医療体制の構築ということが必要。皆さんご存じの通り、医師およびスタッフの不足により、医療体制が乱れているという現状。良い話とすれば、ドクターヘリの利用が開始されたこと、それから来月にはメディカルウイングという、ジェット機を使った救急搬送も確立されていくので、そういうことも地域にとっては少しプラスになると考える。そのプラス要素にあわせ、救急医療を含めた地域医療を充実させていきたいため、皆さまのご協力をお願いしたい。

(渡部委員) この4月に事務局長を拝命いたしまして、元々は函館バスに在籍をしております。日頃、公共交通に携わる者として、色々みなさまに大変お世話になっており、こちらでご挨拶させていただけることは大変有り難い。バス協会の状況ですが、昨年、北海道新幹線が開業いたしまして、新幹線効果を良い意味で大きく受けた。新函館北斗駅からの輸送が道内各地に行くというような、非常に良い流れがきている。今年に入り、その流れは落ち着いてきている状況。これは先程出ておりましたが、個人型観光に観光客の流れが変わってきているという状況だと考える。大型バスよりも小型バス、またはレンタカー、そういったものにシフトしている。また、バス協会も昨今、全国報道でも取り上げられているが、事故が全国でも非常に大きな問題となっている。国交省に動いていただき、あらゆる規制をしようということで、安全評価を認定するという日本バス協会の評価制度を設け、一定の条件をクリアした会社については、一つ星から三つ星にランクをつけ、お客様の安心・安全をお守りしようというような取組みがある。函館地区バス協会の会員の皆さま

までも、三つ星をとっている会社があるが、三つ星目指して安全に取り組んでいこうということ。さらに、なんとといっても運転手のなり手がいないという運転手不足が非常に大きな問題である。そういった状況についても、函館地区バス協会は解決に向けて取り組んでいきたい。どうぞよろしくお願いします。

（金谷委員）福島町の金谷です。千軒地域活性化実行委員会ですけれども、なかなか馴染みのない、名の売れていない実行委員会です。何をやっているかから話したいと思います。まず、千軒地域は大千軒岳の麓にある地域のことであり、そこでは昔から、農家の皆さんが蕎麦を食べている。そこに目をつけ、蕎麦で何か町興しが出来ないかということで出来上がったのが千軒地域活性化実行委員会。いわゆる町興しグループと考えていただければと思います。そして何をやっているかという、春と秋に松前の殿様が、松前から函館を通った松前街道、いわゆる殿様街道でウォーキングをやろうということで、春と秋に2回やっている。それと8月の末には、千軒の初夏の花見をやっている。また昨年からは、千軒蕎麦を売り込もうということで、千軒蕎麦の「蕎麦まつり」も実施している。そして今年からは、福島町も力を入れてくださり、予算200万円程度をつけていただき、今年は例年以上に大々的に開催できると思う。各方面でPRする予定だが、ぜひ、9月24日の日曜日には、足を運んでいただきたい。それから、得意な活動のひとつとして、函館の人見保育園の子どもたち20名程度を2泊3日のワークキャンプで受け入れ、福島町の大自然や蕎麦を体験してもらい、また、保育園との交流も実施している。完全なるボランティアグループということで、数年前から町にも活動を認められ、町内での注目度も高まってきたところ、町の方から支援をいただいて現在活動しています。よろしくお願いします。

（中居委員）道の駅しかべ間歇泉公園の中居でございます。私は以前、商工会の職員も一時したことがあります。現在は道の駅がオープンするということでお誘いをいただき、道の駅の店長をしている。道の駅ですが、施設は鹿部町の施設であり、館内には鹿部商工会が運営する物産館、それから地元の惣菜店、鮮魚店、もうひとつは食堂ということで、地元の農協のお母さん方が普段食べる地元の料理を提供する、そのような施設になっている。その他に、鹿部には温泉があり、温泉熱を利用した蒸し釜、浜で水あげされた魚料理の作り方体験など、体験観光に力を入れて頑張っております。やはりどこもそうですが、夏場の集客は好調であるにも関わらず、11月から冬場がどうしても観光客が大体3分の1くらいになってしまうという課題がある。そこで当施設では毎月第4日曜日に、「わくわくサンデー」と題したイベントを組み、集客を図っている。そして今年道の駅開業から2年目を迎えたが、昨年度は約36万人来店があったところ、2年目に入り、若干落ち込みはしたが、小さなイベントを企画しながら集客努力を続けている。鹿部は、交通の便が悪いということで、これからもタクシーあるいは函館・大沼から来るようなバスでの来客が大半かと考えるが、増便されればもっと集客できるのではないかと考えている。

(岩島委員) 以前は森町の商店会の会長をしております、現在は顧問として携わっている。5月と7月と9月と10月に行われます「もりまち楽市楽座食KING市」というイベントがあり、その実行委員長も兼任している。森町は、みなさんご存知のように濁川地区で、道南唯一の地熱発電があり、当初より発電量は減っているが、現在でも2万6千キロ発電している。私自身も自然再生エネルギー・クリーンエネルギーに非常に興味をもっており、1.3キロ未満の太陽光発電事業を創業してちょうど丸4年となる。森町は桜が大変有名で、観光協会でもある樹齢102年のソメイヨシノが約1500本ある。それから、ホタテの養殖も非常に有名である。2年前からは、牡蠣の養殖をしてはどうかという動きが出ており、ちょうど今年で2年半経ちますが、今年初めて牡蠣の出荷が実現した。牡蠣は非常に病気に強く、1年半で出荷できるというふうに最新の実証では言われております。とにかく農業・漁業が非常に盛んで、全道・全国に食品を送っているというのが森町の産業です。また、先程吉崎委員からもお話があったが、ドクターヘリの運行がこの会をきっかけに実現に至り成功したと聞いておりましたし、少し前の新聞に載っていたジェットプランについても非常に興味を持って見ておりますので、今後も協力していきたい。

(小林委員) 今金町観光協会、それから商工会の事務局長をしている小林と申します。今金町は、新幹線効果というのはまだまだ薄いという認識である。町としても積極的に新幹線効果が出るような動きがまだ出来ていない。そもそものようにして進めていったらいいのかわからないという状況である。昨年度からは商工会主催で、せっかく函館まで新幹線が来ているということで、函館インの千歳アウト、またはその逆で千歳インの函館アウトというようなルートを旅行商品にできるよう、チャレンジしている。今金町だけでは賄いきれないことが多いため、周辺自治体のインアウトを有効活用した周遊ルートを活用したいと考えている。特別な観光施設があるわけではないため、地域の郷土や歴史、食を通じて体験型観光ができるというような旅行商品にしていきたいということで、せたな町さんですとか、八雲町さんと協力させていただければと考えている。あわせて、今金町には、今金高等学校という知的障がい者の学校があり、その子達の仕事づくりをすることで今金に卒業後も残ってもらい、定住人口を少しでも保てるよう工夫している。障がい者が活躍できるというふうに他自治体と差別化した街づくりをしていきたいということで、なかなか障がい者の皆さんが農業体験できるプランがないという課題もあり、そういう小さい地域課題に取り組んでいければと考えている。

(南部座長) 皆様ありがとうございました。最後に、私は函館に来まして13年目になります。専門は認知心理学という分野の研究だが、認知心理学というのは、人の頭の中で情報がどう処理されるかということの研究対象にしている。主にコミュニケーションの中で、人がどのように理解したり、興味を持ったり、モチベーションを上げていったりするのかがということの研究する分野。例えばこの会議でどんな議論になったらいい種が出てくるの

かというようなことも、私自身がこれまでやってきた研究で興味を持った対象である。基本的に心理学を専門としてきたが、未来大に着任してから数年では函館を離れて東京に戻ることを予定していたところ、道南地域のとても魅力的な暮らしや生活、学びに触れていく中で、今ではここに骨を埋めるというような生活になっている。その中で、未来大の一つの活動として、地域と連携しながら様々なことを進めている。私個人で言うと、陣川町という函館市の奥の未来大に近い所にある町内会と連携し、町内会の活動を支援するようなスマホアプリを制作中であり、リリース直前というところだが、そういうことを行い、あるいは北斗市の石別地区の方々と交流しながら、学生を20人くらい連れて行き、フィールドワークを通して地域の魅力を発見し、それをどういう形で情報をデザインし発信していくかということなども取り組みとして進めている。もう一つの分野としては、医療と福祉である。心理学の情報効果の視点から、何が出来るのかということの研究している。特に医療に関しては、ナースステーションの中で看護師さんたちがどういうコミュニケーションを行っているかを分析し、より安全な医療を提供するためにどういうことに気をつけなければいけないかというようなことを調査している。このように、色々やっていくことの延長線上として、この会議の座長を仰せつかることになって4年目ということになったが、4年目になって、率直に言うと、このような会議の場で自由活発に議論してくださいとかアイデアを出してくださいということは、相当難しいと考える。特に、ビジョン懇談会の定住自立圏という概念自体が非常に抽象的であるため、抽象的な枠組みに対して具体的なアイデアや具体的なアクションということは、私たちにはやはり難しいこともあるため、今回事務局から様々な報告があるが、それを聞いたうえで皆さんにお願いしたいのは、種を蒔くというようなイメージで多くの発言を残していただきたいということ。既にやられていることもあるかもしれないし、すごく大きな実現可能かどうかわからない野望もあると思うが、色々な話が出てくる中で連想ゲームのように皆さんの頭の中に浮かんできたこと、恐らくそれはそれぞれの地域に密接に係わることだと考えられるため、この場で多くの種を蒔いて、具体的には議事録に残していただければいいかなというふうに思っております。そういうかたちでこれから議事進行を進めさせていただく。よろしくお願ひしたい。

【議題1】 事務局より資料の事前配付により説明を省略
(意見・質問等 なし)

【議題2】 事務局より資料に基づき説明
(意見・質問等 なし)

【議題3】 事務局より資料に基づき説明

(意見・質問等 なし)

【議題4】 事務局より資料に基づき説明

(南部座長) 私の方からは二点、思いつきというところがあるため、実際にもう既にやられているところかもしれないが、未来大として地域の活動をしていく中で、もう少し広げたいと考えていることがある。一つ目は、町内会や地区と連携してやっていく中で、町内会のお母様方や町民の方がすごくアイデアを持っているが、私たちは一市民だからと言ってそれ以上前に出ていかないという現場を何回か目にしており、それを一生懸命大学として、学生と一緒に地域の魅力やアイデアを掘り起こすということで、話を伺う活動をしている。これについてはもしかすると住民の方に、地域コーディネーターといったような肩書き、あるいははっきりとした名前のある役割ということを与えることによって、アイデアをたくさん持っているが、そのアイデアをどこに出していいのかわからない人が活動しやすくなるのではないかと考えている。それをどうビジョン懇談会の内容に落とし込んでいくかというところだが、恐らく人材育成ということになるのではないかと考えている。それが発展していくと地域間で情報共有をしてそれぞれの地域を道南全体で盛り上げることになるかと考える。道南ならではであったら尚良いが、そうでなくても地域コーディネーターのような養成講座やそれら講座を支援する、あるいはそのように民間の学ぶ機会があったらそれに参加する・支援する、というようなことが出来ると理想的だと考える。これにはモデルにしているものがあり、埼玉県幸手市で地域包括ケアをベースにした、地域の中で健康づくりをするということがかなり知られている成功例としてあるが、そこに所属する方々はボランティア精神で参加しており、誰かが認定したわけではないが、自分達をコミュニティデザイナーという肩書きで呼んでいる。このように、様々な地域活動をしていく中で、そのような肩書きで地域の問題に対して取り組むということが効果的に出来ているため、肩書きや名前というのは大切だと感じ、これらをモデルにしながらか地域を引っ張っていく人というのを構成することをご検討願いたい。まずはこれが一つ目。

もう一つは、我々は認知症ケアをどうICTでサポートするかという課題に取り組んでおり、認知症サポーター養成講座というものを開催したことがある。大学に患者家族会というような、函館市認知症の人を支える会の方に来ていただき、認知症サポーター養成講座を行っていただいた。ほんの1時間の話を聞いただけで、街で不安そうにしている方がいたらこうやって声をかければいいのだな、ということの特に若い人達は素早く理解し、これからの対応の参考にできるということで、すごく安心する。というのは、街中で、あの人大丈夫かな、何か困っているのかなと思うような場面に遭遇しても、ちょっと相手に失礼かもしれないと思って声をかけなかったという経験、あるいはコンビニでレジのバイトをしているときに、何かちょっと大丈夫かなと思う年配者がいたが、どうすればいいかわ

からなかったという経験。このような、普通の人が普通に街の中で生活しているときに、認知症かもしれない患者さんに出会ったとき、何をすればいいかということに関して知識がない方がほとんどである。これらの知識をより広く共有できると街の中全体でサポートする意識が持て、見守ることが出来ると考える。これは福祉分野になるのか、人材育成ということかもしれないが、見守る特別な資格を持っているということではなく、地域で見守るということに対して、何かシステムのサポートが出来ないかということをご検討いただきたい。聞いた話では、新幹線開業により東京と函館がつながったわけですが、認知症患者の方がお金だけを持っていたようで、聞いてみると新幹線に乗って函館まで来てしまったという例があったと聞く。これは相当特別な例ではあるが、このようなこともあるため、早急に取り組んでいかなければならない課題だと考える。ぜひ、共生ビジョンの追加事業に加えていただきたく、よろしくお願ひしたい。

(吉崎委員) 今の南部座長のお話に基づきまして、そういう方を養成していくというのは大切なことであるが、まずその前段階として色んなケースだとか、認知症ということも、皆さん病名はご存知かもしれませんが、どういった症状があったりというのは、わかっているようでわかっていないということもあるため、市民健康教室ということで、病気に関する講座を市民向けに開催している。それは病気の傾向であったり持病であったり、その病気の内容が主体となるが、医療とは少し離れたかたちで市民の方にわかりやすいような情報提供ということで周知をするということが必要と考える。その後、コーディネーターだとかサポーターといった先ほど南部座長からお話のあったような方々を養成できれば良いのではないかと。それと、以前の会議でも私の方から医療の立場として発言させていただいたが、改めてご説明すると、先程も申し上げたとおり、医療スタッフの不足というものを実感している。それを課題として取り上げてどうやって医療スタッフを確保するかを考えているが、医学部の設置については以前に函館市長からお話を伺ったこともあったが、国に医学部の設置を認めていただけないため、設置が難しいとのこと。ですが、医師会が自分たちで設置して医師を養成するというのは難しいことから、それと違つかたちで医師の確保を行わなくてはならない。その他にも医療に係わるスタッフが不足している。私どものところでは看護専門学校ということで、看護師の養成学校を設けているが、そういうかたちで医療従事者を養成していかなければならない。さらに今、2025年問題ということがあり、団塊の世代の方々が2025年には75歳になられて後期高齢者となり、そうすると南部座長のお話にあったように認知症の方が増えるだとか、介護の方が増えるだとか色んなことが考えられる。それで今、回復期といいますか、リハビリを必要とする患者も増えているが、そのリハビリのスタッフも不足している状況。またその病床も不足しておりますので、地域医療構想ということで、北海道全体、日本全国で、そういった病床やベッド等の見直しを考えているが、そういったことでは、道南圏の社会復帰のための病床を増やさなければならぬと、見直しをしている。社会復帰の病床を増やすことで、リ

ハビリを必要とする患者さんの病床となり、そうすればリハビリのスタッフも必要になってくる。ただ、ベッドを増やしても結果としてリハビリのスタッフがいなければ患者さんをケアすることはできない。そういう問題が起こりうるため、私どもは医師会として、リハビリの学校を設立しようと計画している。リハビリの学校については道内に数多くあるが道央圏に集中しており、道南圏の学生がリハビリの勉強を希望しても道央圏まで出て行かなくてはならない。道央圏で学んで資格を取ったとしても、地元にとどのくらいの人が戻ってきてくれるのか。その答えは、戻ってこない、です。やはり若い方は都会志向というか、札幌や本州の方に行かれる方が多い。せっかくの人材がなかなか地元に着しない、戻ってこないため、地元で学校を創設し、地元の学生を受け入れ、地元で就職してもらい、地元で活躍していただくというような構想が具体的にあることから、今そういった設計図を考えている。そういう意味では先程の議事の方でもあったが、ぜひそういったことで皆様方にもご協力をお願いしたい。少し長くなりましたが以上です。

（渡部委員）ちょうど今のお話と重複する部分もあるが、先日ある警備会社さんと意見交換をさせていただいた際に、最近、重度の認知症の方の徘徊について、各施設で発信器や受信機をつけてその方がいつ何時何分にそこを通ったとか、今こちらにいて助けを求めているというようなことを街全体で取り組むことを考えていますという話があった。そこに我々交通事業者としては、日々、車を動かしていることから、バスやタクシーに受信機等を取付け、日々地域で見守りをするというようなことを考えている。先ほど、南部座長からのお話にもあったが、そういった方が目の前にいらっしたらどうしたら良いかというのとあわせて、そういったことも今後お話させていただきたいと思います。

（金谷委員）冒頭の紹介のときに千軒蕎麦の話をしていただいたが、活動開始から10年ほど経っているところ、10年経ってもなかなか販売だとか販路開拓については、福島町だけでは思ったようにいかないという現状。昨年、本州の方から観光だとか食のコーディネートを町が招へいし、様々なアドバイスを受けたが、要は、福島町だけでは広がらないため、なんでもそうかもしれないが、道南まとまってやった方がいいのではないかとのことであった。突拍子もない提案だが、渡島檜山で千軒蕎麦でもいいし、せたな町でも七飯町でも知内町でも、色々な蕎麦を栽培しているので、そういった道南全体で蕎麦会議のような協議会や、例えば「道南ぐるっと蕎麦街道」のようなイベントも考えられるのではないか。また、普段私は町の方の社会福祉協議会に勤めているが、昨年5月の着任から色々と感じているのは、福島町は人口4千人余りの田舎町だが、昨年1年間で孤独死された方が3、4人もいる。どのような状況であったかと考えると、住まわれている地域で孤立していたり、自分は頑張れるから大丈夫だと本人がサポートを不要としていることが多い。このような理由で、突然冬場に亡くなってしまったケースが多くなっている。それは全国的にも増加傾向にあるだろうが、そういった部分である程度、地域で孤立して

いる方だとかに専門的なケアの仕方もあると考えている。ただ実際、やはりそういう専門的な人が365日ついていないわけにはいかないことから、町として診るとか、最終的には地域コミュニティでみるということも必要になってくると考える。先程、南部座長がおっしゃったような認知症ケアのようなかたちで、孤独死なくすために地域で支援するというような地域見守りシステムを考えていけばいいのではないかと。

(中居委員) 住民の移動手段について、我々も団塊の世代であるが、その年齢が急速に免許の返納であったりをする、そういう移動の問題が出てくるのではないかと。今までも当然そのような問題がわき上がることはわかっている、様々な場面で話には出てくるが、田舎の公共交通システムですから、話し合ってもなかなか議論が進まない。それが現状である。そこで、この問題は早急に良いアイデアを出し合い、具体的解決策が必要であると考えている。

(岩島委員) 南部座長から先程、種を蒔くというふうな話があり、それと私は吉崎委員とまったく同じ意見をもっているが、北海道の3大都市である札幌・旭川・函館の中で、函館だけ医学部が無い。以前、未来大学の中島学長と前函館市長の間で、未来大学と市立函館病院との連携で、医学部設立の話がかなり進んで非常に期待していた。そうすると地元にも根づく医者も増える。先程道央圏にどうしても集中しているという話もあったが、そういった医学部を持つ大学等が地元にあるということが、医療スタッフの地元定着につながると考えているし、そのような大学には看護学部等も付随することが想定されるため、リハビリスタッフや看護師といった、そういう部分でも期待できる。一度や二度や三度で諦めず、私は三度断られるくらいのは普通だと捉えているし、むしろ4回目からが本当の交渉だと考える。是非、その実現に向けた種蒔きを、この会議で進めていただきたい。

(小林委員) 私も今皆さんからお話のあった内容でひとつ、やはり人材がいなくて今も報告がありましたが、このような課題を解決していくことが、この組織の使命ではないかと考える。それから、なかなか各自治体住民は、近隣自治体の魅力についてよくわかっていないということもあるので、道の駅等を活用して、近隣自治体の魅力を発信するなどということも考えられるのではないかと。

(阪井委員) 今年5月に18市町で構成されていた南北海道観光推進協議会が解散した。18市町が集まったの何かの取り組みがなくなって非常に残念である。ただ、せたな町では、駒ヶ岳ですとか、あるいは今金・せたな・長万部・八雲町で構成されている北渡島・檜山の4町連携ですとか、江差・奥尻・せたな町で構成されているフェリー関係の協議会がある。各地域でそれぞれ小枠でも広域連携を行っているため、そのような協議会等に参画している担当者等を集めた情報提供の場をつくっていけば、これからの道南の観光推

進に役立っていくと考える。先程小林委員もおっしゃっていたように、各町の魅力というのは、自分自身も他自治体もわかっていないところはあるだろうし、本当に南北海道観光推進協議会がなくなったのは残念であるが、そういう協議会形式ではなくても、行政や観光協会、商工会等の機関が集まって情報交換できる機会というものがあれば、それは今後非常に役立つのではないか。

【その他】

（南部座長）みなさん、ありがとうございます。出し忘れたことがあれば、残して帰っていただきたい。今回は委員のうち7名が観光関連ということもあり、観光に関しては具体的にしやすいかと思っていましたが、観光と離れたところで、またそれぞれの地域の中で暮らしている生活者でもあるため、もし今日出たトピックの他に気になっていることがあれば、ぜひ残して帰っていただきたい。これを含めて、皆さんのご意見を伺える最後になるが、何かございましたらご発言願いたい。

（岩島委員）先ほど阪井委員と小林委員からご発言があったことを受けて、自分のまちのことはよく自分のまわりも知らない、第三の目・第三の声というような第三者の評価というものは非常に大事だと考える。自分が気付かないところを見てもらえるため、先ほど阪井委員がおっしゃった、全道南の意見交換、そういう中で逆に良いところをPRするのも大事だとは思いますが、第三者からそのような場で評価していただくということも、非常に良い効果が出ると考える。

（南部座長）おっしゃるとおりで、私も学生を連れて色々な地域に出ていくと、地元の方はそろって、ここには何もないよとおっしゃられる。やはりそこに住んでいない人が初めて発見出来る良さみたいなものもあるため、地元の人が知っている良さと、外から見た良さを合わせることで、もっと広がっていくのではないかと考える。他には宜しいでしょうか。

（金谷委員）せっかく委員の中に医師会の事務局長様おられるので、強く要望していきたいと思っていることがあるが、福島町の場合は、診療所が一軒しかない。つい最近までは二軒あったところ、そのうちの一軒は体調が悪くてやめられた。その代替わりの人ということで一時は明日にでも開業できるというところまでこぎつけたのだが、途中で頓挫したため、そういった福島町だとかいわゆる過疎の町であっても、すぐに医師等が入ってこられるような体制を整えていただきたい。医療界においても弊害となることが様々ありだと思いが、過疎地域に対して特別にすぐケア出来るような体制がとれないものかと率直な希望、感想を伝えさせていただく。

<その他>

(事務局)

次回開催日程について

- ・10月上旬を予定

次回会議内容

- ・追加事業も含め、ビジョンの変更案をお示ししたい。

(南部座長) 本日の議題が全て終了した。本日はこれで閉会とする。

(15:30 閉会)

出席委員 8名

欠席委員 4名

傍聴者 無